

船舶事故調査報告書

平成22年8月5日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）
委員 山本 哲 也
委員 根本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成21年12月2日 11時40分ごろ
発生場所	佐賀県唐津市呼子港 呼子港加部島防波堤灯台から真方位240°30m 付近（概位 北緯33°32.79′ 東経129°52.06′）
事故調査の経過	平成21年12月3日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 江豊丸、4.9トン SA3-23839（漁船登録番号）、個人所有 11.78m(Lr)×2.72m×0.89m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数90、平成元年10月20日 B モーターボート タミシマ、5トン未満 290-37231佐賀、個人所有 4.43m(Lr)×1.94m×0.97m、FRP ガソリン機関、22.10kW、平成2年8月10日（第1回定期検査）
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 52歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年12月19日 免許証交付日 平成17年10月12日 （平成23年2月13日まで有効） B 船長B 男性 80歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年8月15日 免許証交付日 平成21年7月8日 （平成26年7月19日まで有効）
死傷者等	負傷 1人（船長B）
損傷	A 右舷船尾部ハンドレールにき裂及び擦過傷 B 船首外板にき裂及び擦過傷
事故の経過	A船は、船長A1人が乗り組み、加部島南方を約12.0ノット(kn)の速力（対地速力、以下同じ。）でゆっくりと右転しながら北西進し、加部島から西方に延びる呼子港加部島防波堤（以下「本件防波堤」という。）の突端を約30m右舷側に離して右転を続けた。 船長Aは、本件防波堤の陰から出てきたB船を右舷船首20°～30°40～50mに視認し、左舵一杯として増速したが、平成21年12月2

	<p>日（水） 11時40分ごろA船の右舷船尾部とB船の右舷船首部とが衝突した。</p> <p>B船は、船長B1人が乗り組み、本件防波堤北側で釣りを行ったのち、本件防波堤南側の釣場に移動するため、約14.0knの速力で本件防波堤に沿って西進し、本件防波堤突端を約10m左舷側に離して左舵約5°をとり、左転した。</p> <p>船長Bは、本件防波堤の陰から出てきたA船を視認したが、間もなく両船が衝突した。</p> <p>A船は、機関が停止したB船をえい航して港内に向かったが、途中でB船の機関が起動したため、両船とも自力で呼子港名護屋浦に着岸した。船長Bは右足首き裂骨折を負った。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の中央期、波 なし</p>	
その他の事項	<p>船長Bは、本件防波堤の北側から南側の釣場に移動するにあたって、付近に通航船がいなかったため、本件防波堤の南側に他船はいないと思い、また、本件防波堤の突端に釣り人がいなかったため釣りの邪魔にならないと思い、突端に近寄って航行した。</p> <p>事故発生場所は、港則法適用海域であり、同法第17条は「船舶は、港内においては、防波堤、ふとうその他の工作物の突端又は停泊船舶を右げんに見て航行するときは、できるだけこれに近寄り、左げんに見て航行するときは、できるだけこれに遠ざかって航行しなければならない。」と定めている。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>B船は、呼子港の本件防波堤突端付近において、本件防波堤の突端を左舷に見て航行する際、本件防波堤の突端に近寄って航行したため、本件防波堤突端を右舷に見て航行中のA船と衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Bは、付近に通航船がいなかったため本件防波堤の南側に他船はいないと思ったこと、また本件防波堤の突端に釣り人がいなかったため釣りの邪魔にならないことから、本件防波堤の突端に近寄って航行したものと考えられる。</p> <p>船長Bは、本件防波堤の突端を左舷に見て航行する際、本件防波堤の突端からできるだけ遠ざかって航行しなければならなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、呼子港の本件防波堤突端付近において、A船が本件防波堤突端を右舷に見て航行中、B船が本件防波堤突端を左舷に見て航行中、B船が、本件防波堤の突端に近寄って航行したため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	